



# さとやま

## 今月の見どころ

## 寒さの中で



昨年12月は、後半に入って寒さが厳しい日が多くありました。秋の気温が高かったせいもあり、寒暖の変化をより強く感じました。里も一気に冬枯れの景色となりました。

里では正月飾りに使われる、マンリョウやセンリョウ、ヤブコウジなど、赤い木の実が冬らしさを演出しています。マンリョウは葉の下に、センリョウは枝の先端に実がつくことで見分けられます。センリョウには黄色いものもあります。ヤブコウジはハンノキ広場に向かう流れの岸や、万灯山山頂付近の藪の足元に少数の実をつけます。

そんな冬の風景の中、センター付近には寒さで花卉が変色しながらも花をつけているヤブツバキ、杉林では気の早いウメ、ハンノキ広場では少しちぢれたタチツボスミレ、草原の陽だまりでは、ぽつぽつとホトケノザや、オオイヌノフグリなど、春の花もみつけることもできます。



マンリョウ



センリョウ (赤)



センリョウ (黄)



ヤブコウジ



ヤブツバキ



ウメ



タチツボスミレ



オオイヌノフグリ



# 里の生き物紹介

# 春の七草

1月7日には、平安時代から行われていた野に生える七種類の草の新芽を摘み、粥に入れてその1年の無病息災を祈って食べる、「七草粥」の行事があります。

当時の旧暦1月は今の2月頃にあたり、植物たちの芽吹きも始まっていますが、今の暦ではまだ少し早いものもあります。七草は五・七・五の短歌のリズムで「せり・なずな/ごぎょう・はこべら/ほとけのざ/すずな・すずしろ/春の七草」と口ずさんで覚えます。すずな(菘)はカブ・すずしろ(蘿蔔)はダイコンのこととされていますので、その他のものを里で探してみましょう。

## せり(芹)

セリ科のセリのことです。「競り勝つ」の意があります。

この時期には葉を地表に平らに並べた「ロゼット」と呼ばれる状態で、寒さに耐えています。



少し湿ったところを好むので、里では、田んぼエリアなどでよく見られ、7月頃白い小さな花が集まって咲きます。

## なずな(薺)



アブラナ科のナズナのことで、実の形が三味線のバチに似ているので、「なでて汚れを取り除く」とされます。また、「シャミセングサ」や、三味線の音から、「ペンペングサ」などとも呼ばれます。

この時期はロゼット状になっているはずですが、暖冬の影響か最近では日当たりのよいところでは花もよく見られます。

春から夏の長い期間花が咲き続けます。下から上へ花茎を伸ばしながら咲き、花の終わったものから実ができます。花茎についているすべての実を下に引き、皮でぶら下がった状態にしたものをでんでん太鼓のようにくるくる回し、ちゃらちゃらと音を立てる遊びをした方もあるのではないのでしょうか。

## ごぎょう(御形)

「おぎょう」とも言います。ハハコグサ(キク科)のことです。御形とは人形(ひとがた)のことです。草餅にヨモギが使われる以前はハハコグサが使われて、3月3日の節句に母子の人形を飾り、そこに供えられたのだそうです。

この時期は小さく、花が咲いていないので目立ちませんが、全体に毛が生えているため、白っぽく見えます。





4月、気温が高くなると黄色い集合花がいくつか集まって咲きます。それぞれの集合花は、真ん中に種子をつくる両性花、周囲に糸状の雄花から構成されています



ハハコグサの花（4月）

## はこべら（繁縷）



コハコベ



ウシハコベ（6月）

ナデシコ科のハコベのなかまのことで、細かい茎に葉がむらがるようにつくことから、「繁栄がはびこる」につながります。

里では、コハコベやウシハコベなどが見られます。これも日当たりのよいところでは花が咲いています。1月に見られる花はコハコベが多いようです。コハコベは雌しべの先が3つに、ウシハコベは5つに分かれていることで見分けられます。

ハコベの花弁は10枚に見えますが、根元でつながっていて、本当は5枚です。

## ほとけのざ（仏の座）



コオニタビラコの花（3月）



シソ科のほとけノザ

キク科のコオニタビラコのことで、図鑑に載っているシソ科のほとけノザとは違います。この時期はロゼット状になっています。この葉の様子が「仏が座る台座」に例えられました。

3月、暖かくなると花茎に1つずつ、小さなタンポポのような花が咲きます。この花が、大きな花茎にたくさんの花をつける、同じキク科のオニタビラコに似ていることから名がつけました。

シソ科のほとけノザは、花の下の葉のつき方が仏の台座に例えられます。こちらは、1月でも暖かい場所では花をつけることがあります。美味しくはありませんが、間違えて食べてしまっても大丈夫です。

## 12月の行事紹介



昨年は、コロナ禍という未曾有の事態により行動が制限され、とても寂しい年となりました。

一日も早く、平穏な日々が戻るよう歳神様をお迎えするため、12月20日(日)ネイチャーセンターで講座「正月飾りをつくろう」を開催しました。

慣れない工具に苦戦しながら「松」や「梅」などを飾りつけて、来年こそ「よいお正月が来ますように」とみんな真剣顔。完成後は、疲れを忘れた笑顔がとても印象的でした。

## 1月の行事予定

17日(日)	お花炭を焼いてみよう	20名	AM9:30~11:30	山口 信夫
--------	------------	-----	--------------	-------

◎内 容 ~ 里山で色々な木の実などを採取し、缶に入れて炭焼きを体験します。

## 2月の行事予定

7日(日)	里山で野鳥を観察しよう	20名	AM9:30~11:30	高田 俊洋
-------	-------------	-----	--------------	-------

◎内 容 ~ 里山の小草池周辺で、冬の渡り鳥をメインに詳しく観察します。

20日(土)	竹炭焼きⅠ(竹きり・竹割り)	30名	AM9:30~11:30	神本 晃・河野俊治
21日(日)	竹炭焼きⅡ(火入れ)	30名	AM8:30~11:30	神本 晃・河野俊治
28日(日)	竹炭焼きⅢ(窯出し)	30名	AM9:30~11:30	神本 晃・河野俊治

◎内 容 ~ 里山で竹を切り、割って窯入れ、火入れ後に加減調整し、最後に窯出しする。

- ◆ 竹炭焼きの3回は、継続しての参加を基本とします。[相談可]
- ◆ 参加受付は、各講座の3週間前の午前8時30分から先着順で来園及び電話にて受付します。また、申込は本人、もしくはその家族までとします。
- ◆ 天候や少数(6名以下)などによる講座の中止、又は受講内容を変更する場合があります。
- ◆ 原則、参加費は無料ですが材料費などは実費を申し受けます。
- ◆ コロナ禍の状況により講座を「中止」する場合があります。

## 西尾いきものふれあいの里

◆ところ 〒445-0031 愛知県西尾市家武町小草3番地 Tel・Fax 0563-52-0266

◆休 日 毎週月曜日・祝日の翌日・年末年始[12/28~1/4]

◆発 行 西尾市環境部 環境保全課